

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.75

Mar. 2015

学生生活を充実させる留学。

【特集】



1 : Summer

1年生 夏

ボランティアで世界中の人と協力

アメリカのボランティア団体 ALL HANDS VOLUNTEERS に参加。世界中の人と協力して東日本大震災の復興支援を行うことで、知らない世界を見る大切さを知りました。また、彼らと交流を持ったことにより、海外に興味を持つようになりました。



東日本大震災のボランティアで

交換留学生のサポートを経験

アメリカからの交換留学生のサポート活動に参加。その後、帰国した留学生に現地であうため、学科の先輩と一緒に渡米。もっと長い期間、海外に滞在したい考えるようになりました。



交換留学生との交流



キャンパスツアーで学内を案内

〔留学体験がもたらす成長①〕
常磐大学生の場合

留学をより実り多いものにするためには、入学時からの着実な準備が大切。語学力を高めることはもちろん、学内外で積極的に行動することが、海外でたくましく生きる力を養うことにつながっていきます。

4年間を充実させたいという思いと、海外に対する漠然とした興味がありました。



〔特集〕

学生生活を充実させる留学。

留学は、異文化の中に身を置くことで、自分を試し、大きく成長する良い機会です。今回の特集では、2名の学生の学生生活をたどりながら、留学という挑戦には、どのような準備が必要か、どんなことを学べるのかを中心に、留学体験による成長の過程を取材しました。



PASSENGER TICKET

CASE OF

Fumitaka Ono

TO California State University, Fresno

DATE Aug. 2013 ~ Dec. 2013

小野 史貴

常磐大学
国際学部
英米語学科 4年

■ 留学先
アメリカ
カリフォルニア州立大学
フレズノ校



チームでの発表では映像を駆使。休日も集まって作った結果、評価はA!

4: Fall

4年生 秋

帰国後は、交換留学生の学習面や生活面もサポートできる活動に参加

これまでと同様に交換留学生との交流パーティーや遠足に参加するほか、授業補助に入ることや、国際交流会館へ入寮し、共同生活を送ることも。自分が留学先で現地の学生に助けてもらったように、何か手助けできればと思いました。



日光への遠足



留学生の日本語の授業で、書道体験をサポート

留学後、将来の目標が明確に

海外とかかわる仕事がしたいと強く思うようになり、特に貿易に関心を持ったことから、商社を中心に就職活動を開始。希望する商社に内定したのは、留学で培った英語力や表現力のおかげです。

留学を成功させるポイントは、「やると決めたらひたすら努力すること」です。



3: Fall

3年生 秋

いよいよ留学に出発

秋 semester から交換留学生としてアメリカのカリフォルニア州立大学フレズノ校に出発。長期間、海外での生活を送ることで、異文化理解や英語力の向上につながりました。

★主な授業 授業はもちろん英語!

Class:

English 10

英語の論文の書き方を学ぶ授業です。留学生対象のため、周りには中東や中国、インドなどからの留学生。テーマが被害者学だったため専門用語が多く苦労しましたが、「人権」の重要性を再度認識することができました。

Class:

Drama 62

演劇の脚本を読む授業。現代の英語とは異なる古英語が多く、理解しにくい部分は先生やクラスメイトに聞いたり、実際に演劇を観に行ったり、DVDを借りて作品を見るといった努力をしました。

Class:

Communication 8

プレゼンテーションやグループディスカッションを行う授業。回を重ねるにつれて、自分の意見を的確に述べられるようになりました。また、プレゼンテーションも上達したと思います。

Class:

Spanish 1A

英語以外の言語を学びたいという目標もあり、スペイン語を履修。JICA委託事業でスペイン語を話すグループと知り合ったので、次に会う機会があったらスペイン語で会話をしたいと思っています。

After School



留学生との交流を図るサークル活動にも参加

勉強の合間にクラスメイトとサッカーで息抜き

アメリカの大学は課題が多い! 勉強と息抜きのメリハリが大事です。

2: Winter

2年生 冬

海外に興味があることを周囲にアピール

先輩に誘われ、大学のJICA委託事業の手伝いをしました。コロンビアやネパール、スーダンなどから来られた研修員の方のサポートを通して、各国の暮らしを知り、未知の世界に対する興味が増え、強くなりました。



学生スタッフとしてJICA委託事業をサポート

TOEFL-iBT準備コースを受講

現地の大学の授業を受けたいと思い、交換留学制度を希望。そのためにTOEFL-iBT準備コースを受講するなど英語の勉強時間を増やしました。



TOEFL-iBT準備コースの修了式にて

3: Spring

3年生 春

日ごろから英語を聞く時間をつくって準備

洋画を見たり、通学時には洋楽やリスニングのCDを聞いたりして、耳を慣らすことに力を入れました。また、TALK TIMEに参加したり、ネイティブの職員の方と話したり、留学生との交流イベントに参加したり、英語に触れる機会を見つけて、フルに活用しました。



英語力の向上を図るためTALK TIMEに参加

〔留学体験がもたらす成長②〕 常磐大高生の場合

常磐大学高校では、カナダ3か月語学留学プログラムを実施しています。多感な高校時代に海外を知る経験は、英語力の向上だけではなく、異文化を知り、国際社会に参加する姿勢を養うチャンスです。

もっと英語が上手になって、
外国の友人ができればいいな、と思っていました。



中学2年の夏に、自治体の留学プログラムに参加した際、ほとんど英語が通じず悔しい思いをしたことから、英語教育が充実していて、カナダ留学の機会もある常磐大高に入学しました。

英語力を高めるだけでなく、
日本を知ること大切。

Future

未来

念願かなって
交換留学ができ
将来に役立つ経験が
できました。



まだ見ぬ世界を
知りたいという
思いから。

以前から海外には興味があったのですが、JICAの委託事業に参加した際に、途上国の方々の暮らしぶりやかがい、日本には分からない世界があると知ったことが、長期留学へのモチベーションになりました。以来、交換留学生として、海外の大学で学ぶため、それまで以上に授業に一生懸命取り組み、留学生との交流イベントなどにも積極的に参加して、英語に慣れるように努めました。努力の結果、TOEFL iBTの点数が基準に達しました。留学が決定したときは、異文化に直接触れる機会を生かすため、海外で何でも挑戦してみる勇氣を持とうと思っていました。また、親元

を離れて暮らすことで自立心も芽生えたと期待していました。

留学経験を生かし、
新興国の発展に
貢献したい。

留学先では、寮に入り、さまざまな国籍の学生と寝食をともにし、異文化と身近に接することができました。授業は課題が多く、その点では苦労しましたが、海外での生活を通して、自己管理の意識や責任感、自立心が芽生えたことも収穫です。卒業後はエレクトロニクスの専門商社に勤務し、ビジネスを通じて新興国の発展に貢献したいと思っています。アジアを中心にこれから自動車やスマートフォンが普及していく国で活躍の場を持つことができたら、うれしいですね。



留学を通じて身に付いた力

「語学力」

ルームメイト、サークルや授業で知り合った友人など、多くの人と交流することで、英語を使う機会が増え、リスニングやスピーキングの力が高まった。

「行動力」

留学中はさまざまな行事やクラブ活動に積極的に参加し、休暇を有効に利用して訪れたことがない場所に出かけるなど、行動する幅が広がった。

「寛容さ」

異国の地で新しいことを受け入れる心の広さが養われた。多様な国の学生とルームシェアをしたり、国籍が異なる人々と直接交流することにより、彼らの考え方や行動を深く理解することができた。



PASSENGER TICKET

CASE OF

Hono Namatame

TO

Harry Ainlay High School

DATE

Aug. 2013 ~ Nov. 2013

生田目 保乃
 常磐大学高等学校
 3年
 ■留学先
 カナダ
 アルバータ州
 エドモントン
 ハリー・エインリー高校



留学に限らず、自分から積極的に行動することが大事だと思います。

3: Fall

3年生 秋

校外でも英語で会話する機会を見つけて参加

留学先で知り合った友人とは、いまま SNSなどで交流が続いています。週末には水戸市内の教会で、多様な英語に触れることで、表現力を高めようとしています。



教会で知り合った方と英会話の練習

2: Fall

2年生 秋

さあ、カナダに出発!

最初は10日間のサマーキャンプに参加。学校で生活に必要な言葉を学び、買い物をしたり、お店の人に話しかけて値段を調べたりしました。



サマーキャンプのスタート



ホームステイ先の5歳と3歳の男子

英語とホームステイに少し慣れた9月から約3か月間、地元のハリー・エインリー高校に通いました。授業は「カナダの歴史」と「英語」「理科」「クッキング」を履修しました。

「クッキング」以外は英語を母語としない学生向けのクラスで、中国や韓国、ロシア、アフガニスタンなどの留学生と机を並べて学びました。お互いに単語をつないで会話しながら、放課後は一緒に遊びに行くこともありました。



いろいろな国の留学生と同じ教室で学びます

1: Spring

1年生 春

できるだけ英語に触れる時間をつくる

ネイティブスピーカーの先生と会話の機会を持つようしていました。また、授業以外にも留学生と会話するEC(English Connections)に参加したり、時間があれば、好きなアーティストの英語のインタビューを聞いたりしていました。



毎週水曜日の英会話レッスンに参加

単語を覚えることに専念

1年生の終わりには聞く力は付いたものの、答えたくても単語が浮かばないということが多く、語彙を増やすため単語の勉強をしました。

留学する前は、3カ月は長いと思っていたけれど、アツという間でした。



留学を通じて身に付いた力

「リスニング力の向上」

ジョークにどう応えるかなど、留学前は知らなかった、外国人ならではの表現の仕方が分かるようになった。

「あきらめないこと」

分からなくても、あきらめずに聞いたり、表現を変えて伝えたりすることが大切だと学んだ。

「積極性」

ホームステイ先でも留学先の高校でも、自分から行動しないと、何もはじまらないので、自分から行動するようになった。



入学後は、英会話のレッスンに参加したり、できるだけネイティブスピーカーの先生と会話するように心がけていました。カナダではホストファミリーのご家族、クラスメイトのカナダ人生徒、それから他国からの留学生と会話する中で、それぞれにアクセントの違いや独特のクセがあり、思った以上に英語は多様なのだということを知りました。また、ホームステイ先では、なぜ日本語には文字が3種類あるのか? どうして覚えられるのか? 結婚式の方法は? など、日本特有の文化について質問されたのですが、きちんと答えることができず、日本について学ぶ必要性を痛感しました。帰国後は友人に紹介された教会に通い、年齢も仕事もまちまちな人と話し、人それぞれの英語に慣れることに努めています。留学を通して、もっといろいろな国の人と話したい、異文化を学びたいという気持ちが一層強くなり、海外の大学に進むことも含めて将来を模索中です。

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

4年次生がアメリカに元気に出発。 楽しく、実り豊かな 海外研修旅行になりました。

10月15日から7泊9日の日程で、アメリカ東海岸への研修旅行を行いました。ボストンでは名門マサチューセッツ工科大学を見学。また、ボストン市内では、建国関連の歴史的建造物を見学したり、秋色深まる街を散策したりしました。現地の人に英語で道を尋ねながら、見学地にたどり着いた班もあったようです。週末は、ホストファミリーとショッピングやハロウィーンの飾り付けをして交流を深めました。ニューヨークでは国連本部ビルを見学。スタッフの方から国連や関連組織の仕事について教わりました。最終日の夜は、ブロードウェイでミュージカル「オペラ座の怪人」を鑑賞。迫力ある生演奏と劇場に響き渡る美しい歌声に皆聴き入りました。異文化理解を深め、日本を外から眺めるよい機会となりました。

智学館



大学・短大

学生たちが、日頃の学習活動や サークル活動の成果を発表する 「ときわ祭2014」を開催しました。

10月25・26日に行われた「ときわ祭2014」のテーマは「祭短し 楽しめときわ」。特徴的な催しの一つ、復興支援ブースは、岩手県の関係団体が推進する「いわて三陸 復興のかけ橋プロジェクト」と連携し、学生が出店したもので、まめぶ汁やじゃじゃ麺などの販売や震災関連の展示が行われました。また、耕作放棄地の利活用などを考える特別企画科目「プロジェクトA」を受講する学生たちは、釜焼きピザを販売。学生たちが育てた小麦を使った本格的なピザに、多くの方が舌鼓を打っていました。野外メインステージでは、ご当地アイドルのミニライブやミスときわコンテストなどを開催。さまざまな模擬店をはじめ、部活やサークル、ゼミなどの発表が行われる屋内企画など、すみずみに学生が主体となって楽しむ姿勢が表れた学園祭となりました。

「青少年サミット」に本校の社会部が参加し 「郷土の食」をテーマに提言を行いました。

11月30日、水戸芸術館会議場で「青少年サミット2014」が開かれ、本校の社会部が参加しました。この催しは、青少年が自ら考え、地域の中で活躍する機会につなげるのが狙いです。本校は水戸の「食」に関する調査結果をもとに、「郷土の食」をPRするための提言発表をしました。水戸には納豆以外にも野菜やスイーツなど隠れた魅力がたくさんあり、「B級グルメなど、まだまだ知られていない、伸びしろのあるものがもっとある」と期待を述べ、他校の生徒とその魅力をいかに引き出すかについてグループディスカッションも行いました。このサミットには水戸市長も参加し、生徒の発表に対し建設的な意見を述べて下さいました。社会部の意見が水戸の街づくりに生かされることを願っています。



高校





短大

「2014年度幼教フェスタ」と 幼児教育保育学科のホームカミングデーを開催しました。

12月21日、常盤大学体育館において、幼児教育保育学科の学生による「2014年度幼教フェスタ」を開催しました。課題研究ごとに設置した展示発表と、各クラスによる合唱やダンス、演劇などのステージ発表で、日頃の学びの成果を存分に披露。やり遂げた学生たちの表情には、満足感と達成感があふれていました。また、同日の午前中には、常盤大学学生ホールにおいて、幼児教育保育学科2011年度・2012年度の卒業生を対象としたホームカミングデーを開催。参加できなかった卒業生からの近況報告や、学生時代を振り返る写真のスライドショーなどがあり、懐かしさから歓声上がる場面も見られました。卒業生同士と教員とが旧交を温め、楽しい時間を過ごすことができました。



幼稚園

出前ミルク教室でバター作りに挑戦！ おいしくて体に良い牛乳の大切さを しっかり学ぶことができました

10月27日、茨城県牛乳普及協会の方をお招きし、牛乳や牛についての講話を聞き、初めてのバター作りに参加しました。「子牛のためのミルクを分けてもらっているから、大切に飲もうね！」というお話を真剣に聞いたあとで、いよいよバター作り。生クリームを容器の中に入れて一生懸命振ります。時間にして約7～8分程度。容器には固まったバターとバターミルクができていました。バターミルクは牛乳の味に似ています。バターは食パンに付けていただきました。「おいしい!!!」子どもたちからは笑顔がこぼれました。牛乳についての絵本もいただき、貴重な体験ができました。みんな、牛乳や牛についてあらためて興味を持ったようで、その日の給食は牛乳を残す園児は1人もいませんでした。



大学

国際学部経営学科の学生4名が 「第10回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」で 優秀賞を受賞しました。

12月6日、日本銀行本店で行われた、金融分野のプレゼンテーションコンテスト「第10回日銀グランプリ～キャンパスからの提言～」において、国際学部経営学科文堂ゼミのチーム（宮本夏妃、青木里沙子、三宅育誠、横田智美）が優秀賞を受賞しました。全国44大学121編の応募の中から、書類審査を通過したのは5チーム。決勝大会ではプレゼンテーション・審査員との質疑応答による選考が行われました。テーマは『「金融の力」で女性の活躍を推進～女性活躍応援融資の提案～』。4月から9月に応募するまでの6カ月間、毎週集まって話し合い、企業訪問も実施して現場のニーズも反映しました。受賞後の審査員による講評でも、生の声に耳を傾けながら提案内容をまとめた点について、高い評価をいただきました。



高校

積極的な国際協力の姿勢が評価され本校生が「平成26年度善行生徒表彰」を受けました。

11月14日に平成26年度茨城県私立中学高等学校保護者会連合会研修会が開催され、その中で善行生徒の表彰がありました。地域貢献での表彰が多かった中、本校の藤田龍希君(3年)は、カンボジアでのボランティア活動やJICAでの活動などが評価され、受賞しました。藤田君は「貧困の現実と直面し、自分が恵まれた環境にあることを感じた。しかし、便利な日本で失われつつあるものを彼らは持っているということにも気づき、彼らから学びながら、貧困の問題を是正していきたい」と語っていました。



大学・短大

「第2回 TOKIWA 高校生英語プレゼンテーションコンテスト」を開催しました。

10月25日、常磐大学・常磐短期大学主催の「第2回 TOKIWA 高校生英語プレゼンテーションコンテスト」を開催しました。国際社会で活躍できる人材育成への貢献を目的に、高校生たちが日々の生活の中で感じている課題や疑問点などをテーマに結びつけ、自らの意見や解決案を英語で披露するコンテストです。今回は茨城県内の高校から7人の生徒が参加し、巧みな英語力で自分たちの主張を繰り広げました。国際的な感性から生み出される鋭い提言や自らの体験に基づく力強い意見に、会場は興味深く耳を傾けていました。



幼稚園

爽やかな秋空のもと、2014年度運動会を開催しました。

10月4日、すがすがしい秋空のもと、園児たちのしっかりとした足取りの行進から運動会が始まりました。年少組はかわいらしく、年中組は元気いっぱい、年長組は力強く、今までの練習の成果を披露しました。一人ひとりがはたつととして、懸命に競技する姿に、改めて成長を感じることができました。最後のフォークダンスでは、担任からかけもらったメダルを胸に、保護者の方と本当に嬉しそうに踊る姿が印象的でした。たくさんの保護者の皆さまやお客さまの声援を受け、子どもたちの笑顔がキラキラと輝いた一日でした。



高校

バスケットボール部の代表が長崎国体で“チーム茨城”の準優勝に貢献しました。

男子バスケットボール部の松本紘希君(3年)が、10月18日～10月22日に県選抜のメンバーとして長崎がんばらば国体2014バスケットボール少年男子の部に出場し、準優勝に大きく貢献しました。惜しくも、全国の頂点には届きませんでした。格上のチームを相手に粘り強く戦い、準優勝というすばらしい成績をおさめました。チームの中で松本君の果たした役割は大きく、茨城新聞にも取り上げられました。大会を終えて松本君は「多くの人の応援によって最後まで戦い抜くことができ、感謝しています」と語ってくれました。



大学院

常磐大学心理臨床センターが主催する公開講演会「こころを柔軟に今を生きるための心理学」を開催しました。

11月30日、早稲田大学人間科学学術院准教授で臨床心理士の大月友氏をお招きし、公開講演会を開催しました。テーマは「こころを柔軟に今を生きるための心理学～Acceptance & Commitment Therapy (ACT)のエッセンスを活かす～」。

目には見えない心の働きを知るために「心の声に耳を傾ける」エクササイズを取り入れ、こころの内側を理解する体験的な講演を展開しました。ありのままの自分を否定せずに観察することが、今をより良く生きる第一歩だと気づかせてくれる、有意義な講演会となりました。



智学館

5年次生が奈良・京都へ。2泊3日の国内研修旅行に出かけました。

10月9日から11日にかけて5年次生が奈良・京都へ研修旅行に行きました。1日目の奈良では、東大寺大仏殿、二月堂、奈良国立博物館、興福寺と巡り、奈良公園内を散策しました。2日目は、京都市内の班別研修です。日本で学ぶ外国人留学生とともに研修するという得がたい体験もしながら、多くの名勝を巡って、無事にゴール地点の宿舎に戻りました。最終日は北野天満宮で来年の大学入試に向けてご祈禱をしていただきました。伝統、文化、歴史的遺産に触れることで、日本の長い伝統を実感できた研修旅行となりました。



幼稚園

年長組が茨城県自然博物館へ。
ニコニコ秋の親子遠足に出発。

10月17日は朝から秋晴れの遠足日和！年長組の遠足は、坂東市にある“ミュージアムパーク茨城県自然博物館”へ親子で出かけてきました。大きなマンモスの化石が出迎えてくれ、館内は自然・宇宙・生命など、さまざまなブースがあり、保護者の方と一緒に体験や見学を楽しんでいました。昼食は広い芝生で手作りの美味しいお弁当をいただきました。親子での会話が弾み、こぼれるような笑顔がたくさん見られました。また一つ、忘れられない思い出になる1日を過ごすことができました。



智学館

2年次生が校外学習で東京へ。
異文化交流も体験できました。

11月17日、2年次生は校外学習で東京へと出発しました。お台場では、日本科学未来館で深海の不思議について実験を交えた講習を受けました。その後バスで芝公園や東京タワー付近を通り、浜離宮公園へと移動。公園内には海外からの観光客も多く、積極的に話しかけ記念写真を一緒に撮ってもらう生徒もいました。最後の浅草では、仲見世通りや雷門をすべての班が見学し、外国人の多さに驚いていました。今回の校外学習では、科学技術や日本の歴史について学ぶだけでなく、異文化交流も体験できた点が大変有意義でした。



大学

福島県の小学4年生から6年生までの
22人と本学学生・交換留学生が
国際交流会を実施しました。

11月29日、常磐大学で学ぶ交換留学生と福島県須賀川市の小学生たちの交流会を実施しました。須賀川市長沼公民館が開設した「ガッツ！わいワイ自然塾」による今回の企画は、震災後、野外活動の制限が続いている小学生たちを本学に招き、アメリカ人留学生と日米の遊びを通して触れ合うことが目的。縄跳びやフライングディスクを使ったゲームなどで身体を動かしながら国際感覚を養いました。最初は留学生に戸惑いがちだった小学生たちも、一緒に走り回り、笑い合っているうちにすっかり打ち解け、楽しいひとときを過ごしました。



高校

オーケストラ演奏の
生のステージを全校生徒で鑑賞する
芸術鑑賞会を開催。

10月29日、茨城県立県民文化センターで芸術鑑賞会が開催されました。この行事は、豊かな情操を養うことを目指した音楽鑑賞教室プログラムです。生徒たちは、東京ニューシティ管弦楽団の皆さん(指揮:曾我大介さん)による迫力ある演奏を真剣な態度で鑑賞していました。演奏のほかにも楽器紹介、メロディー・ハーモニー・リズムの役割などのご講演をいただき、さまざまな音楽の知識を深めることができました。また、本校吹奏楽部の生徒たちは同じステージ上で演奏を鑑賞し、有意義かつ貴重な鑑賞会となりました。



智学館

3・4年次生が市内企業のご協力のもと
インターンシップを体験しました

10月9日・10日の2日間、3・4年次生の全生徒が、NHK水戸放送局や茨城新聞社といったマスコミ関係、JTBや水戸プラザホテルなどの旅行・宿泊業、そのほか介護関連や書籍販売など市内の企業にご協力いただき、インターンシップ(職場体験学習)を経験しました。事前の調べ学習や先方との打合せ、そして終了後の振り返りを経て、「仕事をこなせる大人には、教養とプレゼン力が必要」「仕事をするのは楽しいけれど楽しいだけではいけない」という気付きが得られ、自身の将来像を、実感を持って考える良い機会になりました。



幼稚園

2014年度3回目の
「育児に役立つ勉強会」で
子育てを楽しむポイントを学びました。

10月15日、常磐短期大学幼児教育保育学科の木村由希准教授をお迎えして「育児に役立つ勉強会」を開催しました。テーマは「子育てで、意識してみたい3つのこと」。幼児期から「①言葉を育てる ②工夫する力を育てる ③生活する力を育てる」という3つの力を、保護者が日々意識して、日常的に経験させていくことの大切さや、将来子どもがどんな大人になってほしいかをイメージし、お互いに子育てを楽しんでいきたいと思います。木村先生ご自身の子育てエピソードも満載の楽しいご講演でした。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。



浅野 翔

常磐大学高等学校3年

筑波大学

●進路: 理工学群 社会学類

友人たちの真剣さにいつも刺激され、 ぶれずに努力する心が鍛えられました。

常磐大高校に入学した際、中学時代よりもさらに学力を高め、筑波大学に進学すると決意したことを覚えています。以来、ずっと目標にしてきた大学合格に向けて、根気よく、粘り強く努力できたのは、常磐大高校の環境があったからだと思います。授業の進行についていくために、予習・復習などの自主学習をする習慣が身についたこと。また、苦手な教科であっても、分かるまで親身に指導してくださる先生のおかげで、着実に理解が進んだこと。そして、目標を高く持つクラスメイトたちから、いつも刺激をもらえたことが何より大きな力になりました。大学では都市計画を学びます。まず自己管理をしっかりと、その上で将来は開発途上国や地域の開発に貢献できるようになりたいと思っています。



小國 裕梨恵

智学館中等教育学校6年次

ICU (国際基督教大学)

●進路: 教養学部 アーツ・サイエンス学科

希望の進路を実現できたのは 生徒を把握した指導のおかげです。

智学館に入学するとき、印象的だったのは「英語はできて当たり前」というフレーズでした。実際、授業ではディベートやプレゼンテーションをする機会が多く、またEnglish Dayなどのイベントのように英語に親しむ環境が整っていたおかげで、6年前に比べ、格段に英語力が進歩したと思います。また、智学館は家族感があふれていることも魅力で、先生方が、生徒一人ひとりの希望をしっかりと把握してくださっていることが心強いです。大学合格も提出書類の添削から面接の練習まで、つきっきりでご指導いただいたおかげです。進学先は入学後の2年間教養課程を学んでから専攻を決めるカリキュラムのため、文系理系を問わず、視野を広げて学び、自分の可能性に挑戦したいと思っています。

夢に向かうみなさんを、心から応援しています。

常磐大学や短期大学、常磐大学高校、智学館、それぞれの学び舎で、充実した学園生活を送ってきた学生、生徒たち。彼らは夢をかなえるために努力し、そして、教職員や出会った友人たちとのかけわりの中で大きく成長しました。新たな目標に向かって一歩を踏み出す彼らに学生生活の思い出やこれからの期待と決意を語ってもらいました。

Spotlight
01

進学・就職



太田 雄也

常磐大学 コミュニティ振興学部 地域政策学科4年

●進路: 常陸太田市役所

積極的な行動力が芽生えるきっかけを いただいた先生方に感謝しています。

以前から自治体の政策に関心があった私にとって、地域政策学科の4年間はとても学びがいがありました。アルバイトの塾講師の経験から、小中学生がいかに地域に無関心かを知ったことも、自治体の活性化のヒントになり、まず地域に興味を喚起する教育が重要だという問題意識につながりました。常磐大学には、気さくな先生方が多く、学習や進路で悩んだとき、いつも励まし、背中を押していただいたことに感謝しています。また、キャリア支援センターには特に模擬面接でお世話になり、自信をもって面接に臨むことができました。市役所の仕事は多岐にわたるため、どんな仕事でも進んで行い、そして、いつか教育分野に携わることができたら、地元への愛着を育てる事業に取り組むことが目標です。



藤野 有加里

常磐短期大学 キャリア教養学科2年

●進路: 行方市役所

対策講座など公務員試験に向けた 充実したサポートに助けられました。

キャリア教養学科は、社会に出るための基礎になる、幅広い分野の教養が学べるのが魅力です。私はビジネス実務関連の科目を中心に、心理学や秘書学などを広く学びました。中でも印象に残っているのは「経営管理論」や「地域社会と中小企業」などの授業です。経営という視点から、どういう働き方がやりがいを感じられるか考えたとき、地域貢献というキーワードが浮かび、そのために公務員を目指そうと思ったからです。公務員試験の準備では、学内の対策講座がとても役立ちました。先生やキャリア支援センターの方々のかみ細かいサポートもとても心強かったです。今後は自治体職員としての責任を自覚し、市民の方々と信頼関係を築きながら、より良い地域づくりに取り組みたいと思っています。

Spotlight 02

輝く卒業生



学部ゼミでお世話になった千手先生、大学院の小柳先生、2人の恩師に出会えなければ、大学院進学もなく、法務教官としての自分もなかったと感謝しています。

被害者の視点を取り入れた教育で 少年の矯正教育に貢献したいと思っています。

鈴木 龍太 常磐大学大学院 被害者学研究科 修士課程修了

●進路: 法務教官【国家公務員試験 法務省専門職員試験 合格】

多くの方に支えられて研究に打ち込んだ大学院時代。

学部生時代、少年法について研究を進める中で、犯罪被害者の知る権利が保障されていないことに強い疑問を感じ、少年法と少年司法制度について追究したいと考えて、被害者学研究科に進学しました。大学院では事件発生から審判までの過程で、被害者側の人がどういう感情を持ったのかを知るため、学会やシンポジウムで出会った被害者家族の方に依頼し、聞き取り調査を行いました。みなさん快く引き受けてくださいましたが、倫理面の課題から取材の過程で2次的被害を及ぼさないよう、相手の心情や環境に細心の配慮をし、人間関係を構築することに大変苦労しました。指導教員である小柳先生には、研究者とは何か、研究とは何か、手厚くご指導いただき、また困ったときには、いつも多くの方から支えていただいで比較研究を進めることができました。

再犯・再非行を防止することで、社会に貢献したい。

研究を通して、少年鑑別所などの矯正施設を見学した際に、法務教官、法務技官の方の矯正教育に対する情熱を知り、やりがいを感じたことが法務省専門職員を目指すきっかけになりました。小柳先生に相談し「がんばってみなさい」と言われたことで、決意を固めました。学部生のころは与えられる知識を得ることで精一杯でしたが、大学院では知識を土台に、自分で調べ、考えていくことが重要で、その経験があきらめずに挑戦するという気持ちを養うことに役立ったと感じています。今後は、学んできたことを少年院などでの矯正教育に生かしたいと考えています。新たな犯罪被害者を生まないために、犯罪や非行に走った人の立ち直りに力を尽くし、再犯・再非行を防止することで、将来、人々が安心して暮らせる社会が実現するように貢献したいと思います。

Spotlight 03

著書紹介

常磐大学の教員が執筆した さまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 児童文化の中に見られる言語表現
 - ② 岡部 玲子 人間科学部 教授
 - ③ 三宅光一 編著、大内晶子・岡部玲子・鈴木範之 著
 - ④ 2014年10月
 - ⑤ 大学教育出版
- 保育所や幼稚園の先生方、また両親などの目線で眺めながら、子どものことばの発達状況やことば遊びの具体的な内容を取り上げたテキストです。



- ① 教育・保育課程論 書いて学べる指導計画
 - ② 粕谷 亘正 人間科学部 助教
 - ③ 岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著
 - ④ 2015年1月
 - ⑤ 萌文書林
- “保育の連続性”が理解しやすいように、教育課程や保育課程、指導計画等の資料内容を繋げて作成しました。指導計画の作成方法について書いて学べるワーク付テキストです。



- ① 「平和」という病
 - ② 樋口 恒晴 国際学部 教授
 - ③ 樋口恒晴 著
 - ④ 2014年10月
 - ⑤ ビジネス社
- 「一國平和主義」の錯覚(1993年4月)の大幅な加筆版です。集団的自衛権に関する政府の有権解釈の変遷など、戦後防衛政策に関する誤った通説の見直しを行っています。

①著書名 ②氏名・所属・職位 ③著者・編者等 ④発行年月 ⑤発行所

大学院・大学・短大

- ★ 卒業式・学位授与式 3/20(金)
- ★ 入学式 4/3(金)
- ★ オリエンテーション・ガイダンス
..... 4/6(月) ~ 4/9(木)
- ★ 授業開始 4/10(金)

高校

- ★ 卒業式 3/1(日)
- ★ 3学期修了式 3/20(金)
- ★ 1学期始業式 4/6(月)
- ★ 入学式 4/7(火)

智学館

- ★ 卒業式 3/2(月)
- ★ 4学期修了式 3/20(金)
- ★ 1学期始業式 4/5(日)
- ★ 入学式 4/6(月)

幼稚園

- ★ 修了式 3/18(水)
- ★ 第3学期終業式 3/20(金)
- ★ 第1学期始業式 4/8(水)
- ★ 入園式 4/10(金)

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2014年10月~12月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

企 業	
500,000円	(株)西山工務店*
芳名のみ公表	丸善(株)、(株)日本旅行水戸支店
個 人	
300,000円	千葉 茂*
30,000円	久貝 みかの、小柳 武*、竹中 治利*、富田 恭平*
15,000円	中村 和彦*
10,000円	飯村 ゆみ*
3,000円	坂井 知志*、久松 雄大*
芳名のみ公表	石田 喜美*、江原 麻子*、菅野 弘久*、関 いつみ*、 田邊 正*、吉江 森男*
累計金額 89,905,526 円	

● 複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。
本学では、引き続き募金の受け付けをまいります。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

★ 寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

*寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

アンケートご協力のお願い

- ① 印象に残った記事とその理由など
 - ② 今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど
- 皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

★ お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



kikaku@tokiwa.ac.jp

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

● 常磐大学・常磐短期大学

2014年度 海外研修 参加者

2014年度秋 semester は、総勢31名の常磐大学・常磐短期大学生が、以下の日程で海外研修に参加します。

● 海外研修A(アメリカ)

参加者: 12名

カリフォルニア大学アーバイン校

2015年 2月5日~3月7日
(31日間)



● 海外研修B(中国語・台湾)

参加者: 8名

国立台北教育大学

2015年 3月1日~14日
(14日間)



● 海外研修C(タイ)

参加者: 6名

チェンマイ・ラジャバット大学

2015年 2月1日~15日
(15日間)



● 国際文化研修(イギリス)

参加者: 5名

チチェスター・カレッジ

2015年 2月8日~3月5日
(26日間)

